

筆山

第54号 / 2013年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人 / 永森 裕子 (44回) 関東支部ホームページ : <http://www.tosako-kanto.org/>

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)



応援団のリードでアルプス席はひとつになった
(写真提供・69回 武市昌広)

甲子園で思うこと

1月、毎日新聞大阪本社での選考会議場で出場決定の報に寺尾OB会長と涙の握手をしてからあっという間に開会式のスタンドに自分の姿にまだ夢のような錯覚をしていた。入場行進が始まり、土佐高校の姿が遠くに見えた瞬間、現実だと実感した。目の前を純白のユニフォームが一層映え、見事な、さわやかな、頼もしい行進に涙がこぼれてしまった。

さて、現実に戻って感動もこれまで。対戦相手は関東の優勝チーム浦和学院。関東地区選考委員として3試合見た印象。打線は一級レベル。特に1番、3番から5番まではすごい。4番は打線の核でお調子もん。ボールを打たせること。2番と下位打線を抑えれば2点以内はいけそう。小島投手は両サイドへのコントロールがいい。球威は普通。3点が必要。勝つには先取点と投手が2点以内に抑えること。二日間練習を見学し可能性を探った。エース宅間君キレよく好調、高橋君球威ありコントロール次第。打線はやや劣る。内野守備は不安あり。まあこんなもの。土佐高校の伝統そのもの。相手が意識過剰になればいけそう。いざ、甲子園へ。祝杯はもう挙げた。

ゲームを待つ間は楽しいことばかり。懐かしい先輩、久しぶりの同級生、誰だったか挨拶に来た後輩。こんなに応援に来してくれるとは。伝統は生きている。この人たちに支えられている。土佐高校に感謝。シートノックが終わりゲームが始まった。もう勝敗はどうでもいい。すばらしい全力疾走、はつらつとした純白のユニフォームで立派な戦いをしてきている。逆転を信じて快音を祈る。また、祈る。あっという間のアルプス席であった。負けたくやしさは全くない。後輩達よ、よくぞ甲子園に出てくれた。ありがとう。

最後に籠尾先生に感謝。「石文尚武の理想、ひたぶる全力疾走、純白の土佐、とわに輝け」を期待したい。後輩達よがんばれ。

祝・第85回選抜高等学校野球大会 21世紀枠出場 甲子園特集

OB・OG・現役生たちから寄せられた喜びのコメントを一挙大公開!

開会式、「花は咲く」の曲にのって純白のユニフォームが20年ぶりの行進。校名がアナウンスされると、スタンドの歓声が一段と高くなり、思わず目頭が熱くなった。試合当日、優勝チーム相手に果敢に挑み、同数のヒット6本を放ち善戦。超満員の応援スタンドが揺れた。負けた悔しさよりも不思議に満ち足りた清々しい気分だった。閉会式、白線の応援団長が突然現れ最優秀応援団賞の盾を授かりびっくり。同窓の絆を新たにしたり甲子園だった。(30回 浅井伴泰)



心から、土佐高の卒業生であること、また野球部OBであることに、感謝の念と誇りを感じた。甲子園には、3度足を運んだ。甲子園練習は涙が溢れて仕方がなかった。開会式は、浅井先輩夫妻と一緒に目頭押えての観戦。勇姿にいろんな思いがよぎる。試合当日が近づくと、期待ではなく不安が高まる。が、優勝した浦学に互角に渡り合う。籠尾先生の教えは

いい形で引き継がれている。土佐高野球部らしい粘りの試合に超満員のアルプス席は一体となって大声援。斜め後ろにいた籠尾先生の奥さんも取材を受けながら笑顔が絶えなかった。今回の成功体験は、

間違いない土佐高野球部に新たな息吹を吹き込んだ。更に、右文尚武の理想を追い求め、とわに輝いて欲しい。(53回 市川直介)

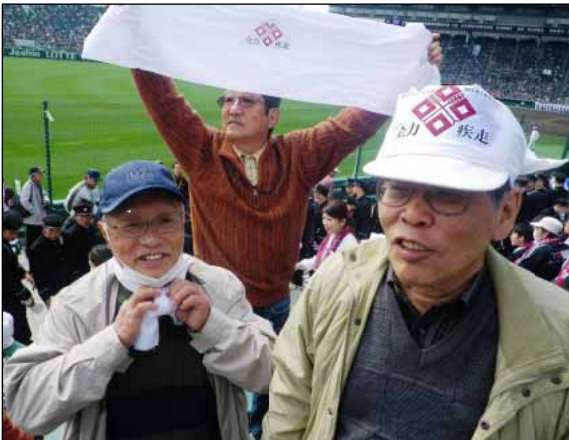
ネットメールで、応援は40名超え、夜の祝勝(激励)会も準備された。20畳天のクシラを持ち込んだS 39年春にプランだったWの「おまえはなにか作れ」にハイよと応えたが。試合が迫り当日の雨が心配の頃、曇天に沈む応援席の夢を見た。イカン! 旗印のハチマキを作ろうと決め材料揃えたのは二日前、当日朝までアイロン掛けして持参した。

記憶のための日付入りハチマキ集団は新聞やYouTubeの画像でもよく目立ち心意気を伝えてくれた。

(その日の笑顔を皆に残して過日浄土に旅立った41T 多田和弘に捧げる)

(41回 水野孝)

関東王者・浦和学院との対戦(写真提供・41回 鶴和千秋)



水野さんお手製のはちまき

20年ぶりの甲子園、待ちに待った日でした。名古屋駅で新幹線に乗る時からもう遠足気分です。ハイテンション: 全力疾走に胸キュンだったり、手が痛くなるほど拍手をしたり、結果は残念でしたが応援席が一体となり幸せな時間を過ごしました。学校関係者、同窓会本部並びに関西支部の皆さま、お疲れ様でした。そして何より選手皆さん、ありがとう。「土佐高」が全国の野球少年の憧れの存在になるようにさらなる活躍を期待したいと思います。フレイ、フレイ、土佐高!(44回 神宮美恵子)

お正月前から愉しみにしていた1月25日の選抜甲子園出場校の発表。期待通りの「推薦入学」ならぬ「21世紀枠推薦」での母校出場が決定した。その夜は49回生が行きつけのワインバー（東銀座）にお決まりの呑兵衛4人が集まり、夜半まで言いたい放題、飲み放題のお祝い会。さすがサンスポ吉井君がスマフォ片手にカンパ方法に一石を投じてくれた。「今日、高



急ごしらえの学生応援団は28名、うち17名が女生徒だった(写真提供・69回 武市昌広)

知で配られた号外がコレじゃ！主客転倒じゃないが学園（高知高のこと）に申し訳ないばあ、土佐の見出しが大きいねや！これを高新の同窓生に頼んで輪転機を回してもらおうたらどうじゃろ？同窓生全員（1万8千人とか？）に号外同封で振込み依頼したら、20年ぶりじゃもの、みんなあちよっとは振り込んでくれると違うかよ。」全員一致でこの妙案を関東支部から本部・母校に提案し

園にはええ行かんかったけど、今回は蔭ながらちよっとだけお役に立てたことを嬉しく思いま

純白のユニフォーム
翔ける

(49回 二宮 潔)

東京駅から乗った新幹線は、十六輛編成の十六号車、十五列構成の座席の前から十四番目。前評判どおりのどん尻に近い席に思わず苦笑い。二十年ぶりの甲子園。予想以上のアルプスの大盛況に、同期に会うのも一苦労。それでもわか同窓会を展

開するうちにやがて試合開始。純白のユニフォームが一斉に甲子園のグラウンドに飛び出す。走る、走る、ひたすら走る。醒めてほしくなかった夢のひとは、瞬間に甲子園を駆け抜けた。20年待ってくれた甲子園は、きっとこの先も土佐を待っている。後輩諸君、次はあまり待たすな。

「これを逃したら、私らあが生きちゅううちに、甲子園での土佐高の全力疾走は、見れんかもしれん！」と口々に言いだした私達は、日曜日に日帰りができる試合時間をかわいいうち、千葉料理長がおもむろに「次は頼んだで！」と、高知高校出身の中嶋店長の頭に「甲子園」と刺繍した帽子を被せていると、近づき、「すみません：僕、浦和学院出身なんです：言えなくを向いたのでした。」と、申し訳なさそうに下

配して下さったのでしよう！5000人を超える応援団が一体となり、アルプスタンドがうねりをあげ、ひよっとしたら勝てるかもと思えるような白熱した試合でした。

まだまだ興奮冷めやらぬ翌日、銀座の「おきゃく」の昼休み、

「(56回 濱田知佐 TOSA DINNING おきゃく プロデューサー)

謝辞にある通りでした。我々49回生



アルプス席の開場を待つ土佐高応援団。このスムーズな入場も、応援団賞最優秀賞に貢献した。(写真提供・69回 武市昌広)

全国各地から 大応援団が甲子園に集結

第85回記念選抜高校野球大会



土佐高等学校

土佐高応援団三か条

- 一、応援用具はマフラータオルのみ。笛・旗・パネルなどは使わないで下さい。
- 二、守備の時、吹奏楽演奏はできません。ピンチにはリーダーにあわせて、大きな声で励まして下さい。
- 三、相手を讃える気持ちをもって応援を！「あとひとり」コールも禁止です。

攻撃の応援パターン〜一緒に大きな声を！

【基本】

カッセ カッセ ○○
カッセ ○○ かつ飛ばせ …(違呼)

【チャンス 土佐高】(ランナー2塁)

かつ飛ばせ かつ飛ばせ
それチャンスだ チャンスだ かつ飛ばせ
それチャンスだ チャンスだ かつ飛ばせ
打てー 打てー ○○

【ダッシュ 土佐高】(ランナー3塁)

土佐高勝つぞ 土佐高勝つぞ
土佐高勝つぞ オー

土佐中学校創立三十周年記念歌

緑したたる南園の 野は常夏の光あり
黒潮はたと崖打てば 自由の香りに空に満つ
あ、土佐中学 われらが母校

二
鉄は熱きに鍛うべく 櫓は聲に響くべし
つどいはげむ優秀の 若き生命に榮あれ
あ、土佐中学 われらが母校

バス組のお弁当に入っていた応援指南書(裏に校歌と応援歌)

そのお弁当は保冷車2台で輸送!
(写真提供・60回 門田幹也)



抽選日翌日、高知に入場券の手配を頼んだら『野球部と40回生が全て持っていく噂なので、広告代六万も払ったあたしでさえ応援バスに申し込んだわよ』。途中、バス組(約50台)は淡路島SAで弁当を食べながら一時間以上駐車場の空き待ち。

試合後、反省会に拘引され、

帰りの足と飯を放棄し、タクシーと新幹線と南風を乗り継ぎ、実家に辿りついたのは真夜中。甲子園は遠かった。

42回生は昭和41年春の準優勝時の中心で、野球部生き残りの3人全員(3人他界)とバトン部5人中4人を中心同期生20人とその家族(孫まで)が『悲願の全国制覇』を祈って声援を



50年若返れたわ!
(元バトン部の談話)

(42回 藤宗俊)

送った。後輩たちは優勝校浦和学院に善戦し建依別の意気を全国に知らしめたが、応援席も、華やかでピチピチした浦和学院に対抗してバトン部が再結成されようとしたが最後は自重し、『最優秀応援賞』につながった。ほんと、ハチキンは年をとってもオンロシイ!



現役土佐校生の応援で熱気に包まれるアルプス席
(写真提供・69回 武市昌広)

超満員のアルプス席の盛り上がりは、テレビ中継でも言及されるほど
(写真提供・60回 門田幹也)

土佐高校・過去の甲子園戦績

(注) 延=延長

| | |
|-----------|------------------|
| 昭和27年春1回戦 | ●土佐0-5 八尾 |
| 昭和28年春1回戦 | ○土佐6-0 早実 |
| 2回戦 | ●土佐0-3 銚子商 |
| 昭和28年夏2回戦 | ○土佐15-3 金沢泉丘 |
| 準々決勝 | ○土佐3-0 浪華商 |
| 準決勝 | ○土佐6-0 中京商 |
| 決勝 | ●土佐2-3 松山商 (延13) |
| 昭和39年春2回戦 | ○土佐7-3 浜松商 (延10) |
| 準々決勝 | ○土佐4-3 平安 |
| 準決勝 | ●土佐0-1 徳島海南 |
| 昭和41年春1回戦 | ○土佐4-0 高野山 |
| 2回戦 | ○土佐10-2 室蘭工 |
| 準々決勝 | ○土佐1-0 平安 |
| 準決勝 | ○土佐7-1 育英 |
| 決勝 | ●土佐0-1 中京商 |
| 昭和42年夏1回戦 | ○土佐6-3 浜松商 (延11) |
| 2回戦 | ○土佐2-0 武相 |
| 準々決勝 | ●土佐1-2 中京 |
| 昭和50年夏2回戦 | ○土佐8-1 桂 |
| 3回戦 | ●土佐3-4 上尾 |
| 昭和51年春1回戦 | ○土佐4-3 豊見城 |
| 2回戦 | ○土佐6-0 徳島商 |
| 準々決勝 | ●土佐3-4 小山 |
| 平成元年夏1回戦 | ●土佐0-2 東亜学園 |
| 平成5年春2回戦 | ●土佐3-5 東北 |
| 平成25年春2回戦 | ●土佐0-4 浦和学院 |

【編集部注】右の阿久悠さんの詩は24年前に書かれたものですが、今なお新鮮で感動的です。スポーツニッポン新聞社の許しを得て転載しました。



選出理由

3800人

の応援団がアルプススタンドを埋め、動きには一体感があった。「学ラン」を着た女子応援団もハツラツとしており一ひつとつのプレーに拍手を送るなど迫力満点だ。

また、対戦相手の好プレーにも拍手をおくるなど好感が持てた。入退場時には学生・一般ともマナーも良くまとまりがありスムーズであった。(発表文より)

白い風が吹く

作詞 阿久悠

「土佐高は甲子園を忘れていません」と監督からのメッセージいやいや甲子園こそ土佐を忘れていなかった縁ある人も無い人も全く同じように自分の心の中、原風景との出会いを喜んだのだ。何の飾りもない純白のユニホームが全速力で駆けるだけで涙ぐみたくなるのは何だろう鈍朴とか懸命とか真摯とか健全とかついつい片隅に押しやってしまった言葉の数々を大急ぎでかき集めながら何かを再発見したのだろうか

そう

かつて少年はこのように光の中を白い風になって走ったおごることなくおもねることなく不必要にお道化することもなく時代がどうであれ流行がどうであれ少年は少年だと小さいからだを躍らせたことがあったたぶんみんなどこか懐かしく土佐が十四年ぶりに持って来た小さい樂園を見つめているのだろうか全くだいい風が吹いた走る 走る 走ると関係なく走る 走る 平成元年八月十二日【スポーツニッポン「甲子園の詩」より】

同窓生の皆様、こんにちは。69年生で野球部OBの片岡と申します。今回は甲子園特集という事でたくさんの方の諸先輩や後輩達がいる中、ご指名頂きましたので、筆を執らせて頂きます。私は20年前の平成5年春、甲子園に出場したメンバーの一人です。この20年間、あと一歩で甲子園という年が何度かありましたが、最後の一勝の壁に阻まれ、選手同様にOBとしても悔しい思いをしてきました。それゆえに、今回の甲子園出場は本当に嬉しいニュースとなりました。ご存知の通り試合当日は、三塁側アルプス席のチケットが完売するほどの長蛇の列となりました。野球部OBの先輩後輩はもちろん、大勢の土佐高OBや土佐高ファンが駆け付け、試合開始前から大変な盛り上がりでした。恥ずかしながら、試合前のシートノックで選手達がグラウンドを全力疾走する姿を見て、目頭が熱くなりました。先輩達を作り上げ、後輩達に引継いだ「石文尚武」の伝統が受け継がれているのを目の当たりにし、本当に嬉しく思いました。

ふるさとへの手紙(十七)

～甲子園特集～ 片岡 信人 (69回)

我々の野球部の代は14名中11名が集りました。試合には敗れましたが、選手たちの一挙手一投足に一喜一憂し、現役時代に戻ったかのように腹の底から声を出し応援しました。同期が集まる機会がなかなかない中、これほどの人数が集まったのは甲子園だからこそです。後輩達に本当に感謝です。今回甲子園に出場できた一番の要因はやはり選手達の頑張りにあります。一方で選手達には、甲子園に出場できなかった大勢の先輩達が流した汗と悔し涙、また先生方や同級生など周りの方々の支えがあったという事も忘れず、謙虚な気持ちを持って今後も頑張ってもらいたいと思います。最後になりますが、後輩達が社会に出て胸を張って「土佐高野球部出身です！」と言えるように、野球部OBとして社会人としての「石文尚武」を引続き実践していくように改めて強く感じています。できるだけ近い将来甲子園に出場し、そして次は必ず、校歌を歌える事を祈念致しまして、終わりとさせて頂きます。

母校よのり

全国から土佐高校のために駆けつけた人々で下段から上段までぎっしり埋まったアルプス席。土佐高校20年ぶりの出場への思い、試合への期待感がスタンドは大いに盛り上がり、どの顔も興奮を隠しきれない。沸き上がる声援、広い甲子園球場、そして目の前で駆け抜ける白いユニフォーム―鮮やかに焼き付けられたこの光景を私は決して忘れることはできないだろう。最後に。私達を甲子園に連れて行ってくれ、あの感動と言葉に表すこともできないような一体感を感じさせてくれた野球部員達をもう一度盛大な拍手で称えたいと思う。

(高三 金華美)



日曜第3試合、相手は優勝候補。それでも足りないと思いつつ大会本部に出したアルプス席券の希望は5000枚。認められたのは3800枚。当日配布500枚に開始前から長蛇の列。本部役員・球場係員監視の下、分厚い同窓会名簿と照合しながらチケット配布。応援グッズのマフラータオルを単独で配ることは認められず、準備した500枚は一時没収。頭を下げ続けた1時間余り。悔しさを晴らしてあまりあるアルプスのエンジ色染め。ただ感謝。

(49回・教頭 小村彰)



強豪を相手に、OBたちを大いに沸かせた試合だった。試合終了後、選手たちに拍手喝采が送られた。

(写真提供・69回 武市昌広)

みんなの夢
支えたスパイク

杵島 央至(72回)

土佐高校野球部OB・72回生の杵島と申します。今回の選抜高校野球大会では、後輩達がよく頑張りを、観戦した全ての方々を楽しませてくれました。一回戦で惜しくも敗退という結果でしたが、この大会で優勝した強豪校相手に終盤まで1点を争えたというのは、現役選手達にとって大きな自信になり、この夏へ向けて大きな力になったと思います。



(上、右)72回生を中心とした野球部OBがプレゼントしたadidasのスパイク

我々の代は、高校最後の夏の高知県予選、決勝で宿敵明德義塾と対戦し、延長12回の末、力尽き、甲子園に出場できませんでした。チームの足を引っ張った、その試合での自分のプレーは、今でも夢に出ています(泣)。

さて、我々OBは、この大会に向け、現役選手へのスパイクの寄贈を検討致しました。「少しでも力になりたい。自分達も一緒に、甲子園に立って、全力疾走したい。」と、思いを込めて。近い代から連絡のつながる有志で伝達しあったところ、急な話であったにも関わらずすぐに寄贈のための資金が集まり、無事に選手たちへ贈り届けることができました。さすが。「土佐高愛」を感じました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございます。スパイクは、「全力疾走」

の力となるべく、軽量かつフィット感がある最新モデルを選びました。エースの宅間君はじめ、多くの選手に着用いただけただけで、嬉しく思います。

甲子園のスクリーンに「土佐」の名前が、掲示されただけでも身震いするほど興奮しましたが、アルプスの大応援団の声援には、本当に感動しました。また甲子園で応援できるよう、現役選手達を支援していきますよ!



72回生を中心とするスパイク寄贈メンバー

グラウンド・レポート

投手*宅間 健翔

この春、土佐高校野球部は、先輩方の功績もあり、21世紀枠として甲子園に出場させていただきました非常に貴重な経験ができました。特に僕はエースとしてマウンドから全国レベルとの差を痛感し、又、力の差はあっても勝負はできるという自信も得ることができました。そして、何よりもあの大応援団には感動しました。恐らくあの5,000人ももの応援がなければ優勝した浦和学院とあそこまで渡り合うことはできなかったでしょう。選手と甲子園と応援してくれた人、全てが一つになったように感じられました。甲子園に出る事はできました。今度は甲子園で勝たなければなりません。今、チームは一つとなり夏の甲子園を見据えています。春の応援ありがとうございました。そして、これからも土佐高校野球部の応援をよろしくお願いします。



土佐高名物・
全力疾走!

川村コーチの
ノック風景

(写真提供・60回
門田幹也)

野球部監督*西内 一人

この度、20年ぶりの甲子園に出場することができました。21世紀枠で選ばれた時の嬉しさは、日が経つにつれ緊張感や大敗したら等の不安へと変わりました。試合前のミーティングでは選手と同時に自分にも「甲子園の初戦は相手はどこでも五分五分、ゲーム中盤まで1点差以内でついていけばいける」と言い聞かせました。その言葉通り選手一丸となって踏ん張り理想的な展開となりましたが力及ばず、あっという間の甲子園でした。しかし優勝した浦和学院に善戦できたのは、選手達の全力疾走を貫く姿勢とあの大声援という後押しがあっての事であると思っています。今回の甲子園出場で土佐高野球部の復活の第一歩を踏み出せたと思います。必ずやまた甲子園に出場し、今度こそ校歌を皆様と一緒に歌えるよう頑張ってまいりますのでよろしく願います。

主将・レフト*織田 真史

この度は諸先輩方の伝統のおかげで甲子園という憧れの舞台に立たせていただきありがとうございます。

甲子園では全国レベルのチームと試合をすることができ自分達には何が足りないのか、また逆にこういうプレーは全国でも通用するんだと自信もつけられました。そしてアルプスには収まりきれないあの人数での応援が自分達に計り知れない力や勇気をあたえてくれました。そのおかげで自分達は浦和学院とも終盤まで互角な勝負ができたと思います。

次の夏の県大会では優勝し甲子園のキップを手に入れ、また先輩方と一緒に甲子園の舞台で戦いたいと思っています。これからも応援よろしくおねがいします。



野球部コーチ*川村 嘉彦

甲子園、とにかく凄い所でした。スタンドの広さ、内野の土、外野の芝のすばらしさ、球場全体から伝わる雰囲気、どれもが最高でした。さてその甲子園において私は年甲斐もなく緊張し、おそらく選手よりもビビっていたと思います。浮かんでくることは不安な事ばかりで、余裕のある態度をとるのに必死でした。私の緊張MAXは試合前ノックにやってきました。“緊張しているだろうから、できるだけ取りやすいEASYなノックを”と(空振りの緊張と戦いつつ)いざ一本目。織田主将、やってくれました得意の落球。私の頭は真っ白、そのあとはあまり記憶が残っていません。本戦では素晴らしいファインプレーでチームを盛り上げてくれました。今回優勝校と戦うことができ、監督はじめ選手も手ごたえを感じています。今回の経験を生かして夏も出場するべく、選手をサポートできればと思っています。また、この感動を来年以降も経験できるよう今後も監督を支えていければと思います。

本部便り

20年ぶりの甲子園 今春のセンバツ高校野球大会に母校土佐高は21世紀枠で出場校に選ばれ、20年ぶりに甲子園に参戦しました。初戦突破を目指して奮闘しましたが、優勝まで登り詰めた浦和学院との第一戦は0対4で惜敗しました。しかし、往年を彷彿させる全力疾走とともにアルプス席を埋め尽くした大応援団は全国の注目を集め、選手諸君もそれに応えて、素晴らしい戦いぶりを発揮してくれました。同窓の一人として選手の方々に心から感謝すると

もに、これを端緒に自らの力で甲子園への道を拓いていただくことを期待しています。また、この吉時に際し同窓生のみなさんにご支援をお願いしましたところ、多数のみなさんから予想以上のご協力をいただき、誠にありがとうございました。心から厚く御礼申し上げます。

南海トラフ地震対策 南海トラフ地震は、極く近い将来発生が予想される駿河湾から日向灘に至る海域を震源域とする巨大地震のことですが、高知県はこの南海トラフ巨大地震が起きた場合、津波や建物倒壊による高知県の死者は最大で4万2千人に上るなどとする県独自の想定を

公表し、市町村別の死者数などを初めて示しました。想定される死者数が最も多いのは高知市の1万2千人で、人口に占める死者の割合が最も高くなるのは安芸郡東洋町の32.5% (1,100人) などとなっています。一方、県は、建物耐震化率を100%に引き上げて早期避難の徹底を図るなどすれば、全体の死者数を1,800人に減らせるとの試算も公表して、県全域で防災・減災対策を加速させるとしています。

そのためにも、予て尾崎高知県知事 (61回生) も要望している「特別措置法」の一日も早い成立・施行が切望されます。

同窓会会長 / 岡内 紀雄 (34回)

2013 ホームカミングデー

日時 : 8月17日 (土) 11:00 ~

場所 : 土佐中・高等学校

筆山ホール講演会

ジャーナリスト 門田隆将 (門脇護) 氏 (53回)

懇親会

18:00 ~ ザ・クラウンパレス新阪急ホテル

今年もホームカミングデー開催！
「3の回」が趣向を凝らせて
皆様のお越しをお待ちしています。

関東支部便り

母校20年ぶりの選抜甲子園出場之余韻冷めやらぬなか、6月1日 (土)、今年も大学1年生の88回生35名を招待し、世話役当番3の回生の献身的な協力により実に活気溢れる充実した関東支部総会・懇親会だった (参加者270名)。11頁参照

ご参加出来なかった支部会員のために報告・審議された主な活動報告と活動方針を挙げて、次の4点である。

① 関東支部会則の改訂、並びに学年幹事制度の見直し・活性化提案。

② 支部名簿の発行は見送る (理由として2010年、本部支部名簿統合システムが完成し、高精度な名簿一元管理がスタート、本部が2010年版を発行済み)。

③ 甲子園出場記念「応援タオル」を母校の許可を得て支部財源の一部を充てて追加製作し、関東支部全会員に後日発送する。

④ 来年の役員改選にあたり新任要請には出来るだけ快く受諾をお願いしたい。

併せて今回の甲子園出場にあたって、多数の同窓生より同窓会にも野球部にも激励のご寄付をいただいたことにこの場を借りて改めて感謝したいこと。その後、貴重な経験をした野球部員は、選抜大会後のチャレンジマッチや春季県大会で強豪高知、明德両校に大変善戦をしたとのこと、夏の選手権大会出場に向け、西内一人監督 (59回) のもと大いに精進され、実力で甲子園出場を果たして欲しいと市川直介幹事長 (53回) より激励の言葉が続いた。

会計・監査報告の承認などのあと、ご来賓の山本芳夫校長 (40回) からの「全国

各地より甲子園に駆けつけてくださった6000名の同窓生大応援団、そして応援力も実に11608名、4千4百万円余りに達した。つくづく多くの人に支えられた甲子園出場だった」という謝辞が印象的だった。更にはご来賓の寺尾郁夫野球部OB会長 (40回) からも「20年間の長きにわたり暖かく見守り応援してくれた関東支部の皆さんにお礼を申し上げに参加しました」と感動的な謝辞もいただいた。

大盛況の総会のこと、今年の東京六大学野球春季リーグ戦から東京大学野球部監督として指揮を執る浜田一志さん (58回・部活生専門塾・A1西武学院塾長) による「志」(副題・文武両道) と題する記念講演を拝聴した。何事も基礎が肝心、徹底的にしつこく繰り返す「7・5・3の法則」(仕事、勉強と遊びの両立のコツ)、スキ

ルアップの4T (Traceまねる、Trainingやってみる、Think考える、Teach教える)、指導者は煙たがられる位がちょうど良い、出来ん子には解き方だけをシンプルに教える、学力は環境、但し図形・転回図の認識力は遺伝らしい。その証拠に自分の名前をひらがなで上下逆さまに下から書いてみよ! と、最後まで聴衆の目と耳を釘付けにした。

総会後の懇親会は最高の盛り上がりを見せた。いつものように後輩学生諸君による「よさこい踊り子軍団『陽』」が大盛況の懇親会場を隈なく廻り、ちゃっかりカンパをせしめてニコニコ顔で消え去った。よかよか (笑)！寝たけなわのタイムミグで3の回生から「あとは頼んだけよ!」と4の回生に校旗が渡った。今年もまた大成功の総会・懇親会だった。

関東支部事務局 / 二宮 潔 (49回)

支部便り

北海道支部だより 山本隆昭(53回)

最近の活動としては、昨年秋の支部総会と支部便りの寄稿です。昨年の支部総会では、2013年度からの役員改選が行われ、植村さんが新たに選出されました。支部長以下そのほかの役員に変更はありませんでしたが、先川幹事長が今年の4月より高知工科大学の特任教授に就任され、現在は和田支部長が併任となっております。今年の支部総会は9月に予定しておりますので是非ご参加下さい。今後も北海道支部を宜しくお願い致します。

広島支部だより 幹事 門田佳代(49回)

春の母校の甲子園出場は何よりの喜びでしたね。広島からの応援に加われなかった私に驚きの出来事。近所の友人の娘さんが、甲子園に土佐高の応援に行ったというのです。何とどんな様は土佐高の卒業生。選手たちの応援席へのさすががしい礼にだんな様以上に感動して涙したのだとか。昔から知っている彼女が先輩になったようで、うれしく話を聞きました。さて、今年度の広島支部総会は11月9日土曜日。講演会の講師は関東支部の森支部長(41回生)にお引き受けいただき、アンデルセンにて開催いたします。どうぞ、支部長とご一緒に秋の広島においでください。来ないのは惜しいですよ。

東海支部だより

瀬沼憲司(64回)

東海支部では、幹事長・事務局長が5月に開催された総会にて交代、幹事長代理を44回生の山崎博司先輩が、事務局長を私が仰せつかることになりました。カー一杯がんばって参りたいと思います。最近、関東・関西支部とも同窓会若手交流会が盛んに行われているようです。東海支部でも若手同窓生に参加してもらおうべくいろいろと考えているところです。是非とも御同期や後輩の方、ご兄弟ご子息ご令嬢など東海においでになる方に同窓会への参加をお伝えください。12月には東海支部冬の懇親会も予定しております。

香川支部だより

事務局 野村喜久(54回)

関東支部の皆さん、こんにちは。「うどん県」香川より香川支部便りをお送りします。香川支部は会員数が200名弱。毎年7月の第1土曜日に「七夕総会」を開催し、瀬戸内海を眺めながら夜遅くまで交流を深め合っています。最近の話題は、何と言っても瀬戸内海の島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2013」。23の国と地域から多くのアーティストが参加し、現代アートと瀬戸内海の四季を併せて感じてもらう一大イベントです。この機会にぜひ一度、うどんと芸術の香川県を味わいに足を伸ばしてください。

関西支部だより

藤原由親(65回)

同窓会の皆様、こんにちは。関西支部事務局より今年度の活動をご報告致します。今年度の総会・親睦会は4月7日(日)に開催されました。場所は室町末期創業の「ぎおん 二軒茶屋中村楼」さん。京都八坂神社の門前茶屋として歴史を重ねてきた老舗です。ご来賓13名を含む88名のご出席をいただきました。今年は京都での開催ということもあり、京都観光を兼ねた前夜祭も開催しました。例年以上に親睦も深まり、楽しい一時を過ごすことができました。

母校便り

学校長 山本 芳夫 (40回生)

関東支部の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。いつも母校に対し格別のご支援を賜っており、ことに心から感謝申し上げます。

●甲子園出場へのご支援ご声援について(御礼)

20年ぶりの甲子園出場に全国各地から多くの同窓生が応援に駆け付けて下さいました。その中で、関東支部の皆様にも多数お見えいただき本当に有難うございました。併せて、テレビ観戦などでご声援いただいた方々にも感謝申し上げます。

試合結果は残念ながら一回戦での敗退となり反省すべき点もございますが、選手諸君の全力プレーは「冠する土佐の名に叶へ」に恥じない試合態度であったと思います。その上に、全員一丸となった熱気溢れる土佐の応援に対し「応援団最優秀賞」という栄誉をいただきました。これも応援に参加していただいた皆様のおかげでございます。

一方、寄付金募集にも多くの方々からご厚情を頂きました。改めて感謝致します。この様に多くの人々に支えられた甲子園出場でありました。重ね重ね御礼申し上げます。

●大学入試結果について

今年の大学入試の結果(総括)は左表の通りです。現役合格率など改善す

| 年度 | 25年度 | 前年度 |
|-------------|-----------|-----------|
| 現役合格率 | 63.9% | 66.2% |
| 国公立現役合格者 | 95名 | 89名 |
| 離関10大学(※) | 51名(現25名) | 40名(現27名) |
| 国公立医学部<歯学科> | 21名(現9名) | 33名(現9名) |

(※) 旧7帝大、一橋、東京工、神戸
本年度 東大合格者9名(現役4名)
京大合格者11名(現役2名)

る方は本校HPの「進路の部屋」をご覧ください。

なお、個別大学の状況にご関心のあ

連続17回目)、ハンドボール女子(2年連続3回目)、個人では、陸上・女子400m障害、バドミントン・男子ダブルスが優勝するなど各種目で健闘しました。尚、7月下旬から大分など4県で開催される今年のインターハイ「北部九州総体」には、上記の登山、ハンドボール、バドミントンに加え、準優勝したテニス・男子シングルス、空手道・男子組手と形も出場権を獲得しました。全国大会での活躍に期待しているところであります。そして、今年も「より高いレベルの文武両道の達成」を目指してまいります。

●修学旅行について

高一生の修学旅行(東京・京都4泊5日の旅)を11月下旬(18~22日)に予定しております。その中で、東京近辺でのコース別研修は土佐高ならではの企画であり、生徒にとっては進路を決める上で貴重な体験となっております。今年もまた関東支部の同窓生にお世話をお願いすることになり恐縮に存じますが、どうか宜しくお願い申し上げます。

●高校県体の成績について

5月中旬に開催された県体(水泳は6月下旬予定)には本校から、18種目(男子237人、女子117人)が出場。団体では、登山(5年

暑さに向かう折柄、皆々様のご自愛の程心からお祈り申し上げます。

(平成25年5月末日)

母校/同窓会本部/各支部

土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html

土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosaobog.com/

北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL)011-756-2817 (FAX)011-756-2817 (E-mail)yamat@den.hokudai.ac.jp

東海支部 事務局長 瀬沼憲司 〒455-0064 名古屋市港区本宮町6-7-5 フォレスト本宮201
(E-mail)knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP)http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/

関西支部 事務局長 原田和人 〒662-0015 西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方
(TEL)090-1073-7822 (FAX)ナシ (E-mail)harada73@hotmail.com (HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/

広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007広島市南区皆実町6-3-26-902 (TEL)082-253-5759
(FAX)082-254-7523 (Email)spat5629@vesta.ocn.ne.jp (HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/

香川支部 事務局長 武山正人(担当:大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL)050-8801-2720 (FAX)ナシ (E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp

関東支部 事務局長 二宮深 〒100-8222千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所 弁護士市川直介 介付
(TEL)03-5223-7719 (FAX)03-5223-7619 (E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com



(写真左) 記念講演は浜田一志さん(58回)。演題は「志—文武両道への熱き思い」。
(写真下) 校旗と一緒に写真撮影に人気
が集中!?



関東支部総会 2013.6.1
森 美樹 (53回)

「右文尚武 (ゆうぶんしょうぶ)」。

漢字のテストではありません。今年の関東支部総会のスローガンです。

隣り合わせにあった千葉周作の道場と漢学塾の門下生が交流し、文武の道に共に励んだことに由来し、「文武両道」を意味します。

甲子園ムード満載の会場、土佐高校野球部出身で東大野球部監督「浜田一志」さんの講演と、いつもにも増して熱気あふれる総会でした。講演会は、初めての立ち見まで出る盛況ぶり。「野球」と「教育」という「文武の志」についてのお話に加え、浜田さんから「遺伝的な数学能力の判断テスト」がみんなに出され、会場は大いに盛り上がりました。

懇親会では、高知の食材を使ったメニューとアイスクリンが人気。一級建築士の担当幹事が「アイスクリン大箱からカップで何人分を掬えるか、高層ビルの設計よりも頭を悩ました」とか。「土佐高に行ってよかった」という思いがさらに強まった総会でした。

(写真右) 今年も新・卒業生(88回)をご招待。今後の活躍に期待!

(写真左) 応援団最優秀賞の盾もお披露目された。



**3の回のみなさん
ありがとうございました!**

学生・若手社会人交流会
83回 北村悠夏

講師の吉村さんと
筆者（左）



三菱商事株式会社に入社された。米國三菱商事勤務やクアラ Lumpur での5年間の支店長経験等、まさに世界を股にかけて活躍され、石油事業本部長・LNG事業本部長を経て2008年には代表取締役副社長に就任された。そして現在は三菱商事株式会社の顧問と、wing株式会社の取締役会長を兼任されている。このような肩書きとは裏腹に、吉村さんは非常に気さくで、ひとりとひとりのコミュニケーションを大切にされる人情味あふれる方である。

吉村さんの人柄をよく表すエピソードが質疑応答の中から飛び出した。吉村さん自身が「人生の正念場」と呼ぶ、それまで長年慣れ親しんでいた石油事業から、初めて経験するLNG事業へ移籍した際、吉村さんはまずLNG事業で働く社員一人ひとりと益を交わし、意見交換をし、お互いによく知り合うというところから、LNG事業という吉村さんにとって未知の世界への挑戦を始めたという。そして、「従来のビジネスモデルでは将来の成長はない」という強い思いを抱くようになり、失敗を重ねながらも様々なリスクにチャレンジし、全員が一丸となって三菱商事の伝統的なLNG事業を大きく変革した。なぜ、吉村さんはそこまで出来たのか。ヒントとなるのは、吉村さんが常に大切にしている次の言葉である。

「世に生を得るは事を成すにあり。事を成さんとすれば知と

勇と仁を蓄えんといかんぜよ。一高知に生まれた人間であれば誰しもアイデンティティの一つとして掲げ得るであろう「坂本龍馬」の遺した有名な言葉だ。しかし我々の耳に馴染んでいるのは前半のみで後半は聞き慣れないこの聞き慣れない後半の部分こそが、この講演のタイトルにもなっている。では、「知と勇と仁」とは一体何を指しているのか。まず「知」とは、知識を身につけることは勿論のことだが、大切なことは、多くの人と交流する中で相手を知ると同時に「自分がどんな人間かを良く知って貰うこと」であると。

次に「勇」とは、勇敢さを指すが闇雲に物事にぶつかっていく「蛮勇」ではなく、しっかりと考え、目の前にあるリスクはとるべきか否かを判断し、その上で決断しチャレンジする「勇氣」のことであると。最後の「仁」を吉村さんは一言で「人間力」とあると語る。人間力とは人に信頼され、人を束ね、それによって事を成す器の大きさを指すが、大切なことは「知」と「勇」が備わってはじめて「仁」が生まれてくるのだという。ただ、龍馬がそうであったように、知と勇と仁は生まれながらに備わっているものではなく、色々な経験を積む中で自分で努力をして「蓄える」ものだという点を強調された。

吉村さんが大切にされているもう一つのキーワード、「三つの目」とは、「深い目」、「広い目」、「深い目」を指す。「長

い目」とは中・長期の視点で物事を考える、「広い目」とは多くのことに興味を持ち広い視野（グローバル）をもつ、そして「深い目」とは物事を深く考えるということであるが、この「三つの目」を持つことは良好な人間関係を築く上でも極めて重要であると。人生一度しかない中で、「長い付き合い」や「深い付き合い」が出来る人間でありたい、そして出来るだけ広い分野の人たちとそういう付き合いが出来る人間でいたい、と吉村さんは言う。龍馬は常にこの「三つの目」を蓄えて生きていたに違いない。



していけることである。私達がこれからの日本、世界で生き抜いていくヒントを与えて下さる先輩がこんな身近にいることは土佐高の財産であると言える。この「学生・若手社会人交流会」が、これからの未来を育てる若手達が素晴らしい先輩・同期・後輩らと「長く」「広く」「深い」付き合いを築き上げていく場となることを期待したい。

公美子と晶子のインタビュー
第2弾

伝承・土佐人氣質

宮地貫一さん
(21回生)

宮地先輩は、パーバリーのコーナーに東急ハンズで息子さんが見立てのカーマのリュックで定刻どおり颯爽と登場。お話を始められた。

私の人生は、大きく3つに分かれます。前回お話しした東京大学を卒業までの25年、文部科学省時代の35年、そしてその後の25年です。第3の今が一番面白いんですよ。新しいものを造りだすという私らしい生き方が出来たと思います。

文部次官退官(1986年6月)後も教育に関するお仕事が多かったですね。

1993年世界大学総長会議(I A U P)では会長をしまし

宮地さんが創立時に関わった学校
【放送大学】 文部次官時設立に関わる。退官後理事長を5年勤める。衛星を教育に。現在学生8万人超。
【東亜大学総合大学院(下関市)】 新設のH4年~5年間大学院長。5年一貫の総合大学院。
【高知工科大学】 県内に工学系大学を創るといふ当時の橋本知事の公約に、準備段階から関わり副理事長に。東京工業大学から末松学長を招く。
【国際医療福祉大学】 1995年開学当初副理事長。日本初の医療福祉専門の総合大学で高い技術と知識は、医療界で認められる存在に。
【立志舎高等学校(錦糸町)】 ♪どこまでもどこまでも♪のCMで知られる立志舎グループ、設立時に板垣退助の立志社から宮地さんが立志舎と命名。修学旅行では高知を訪れ、桂浜の清掃を行っている。



(写真) 勲二等旭日重光章を受章
2001年11月 最愛の奥様と

た。神戸で第10回大会が行われ、高円宮両殿下と海部元首相・森山文部大臣をお招きしました。年に1回の海外で行われる理事会には、女房と一緒に出席しました。エジプトのルクソール・スペイン・メキシコと行きました。唯一の女房孝行でしたね。

冷房化を進めました。2003年8月からは同窓会会長。2007年9月からは、10代目理事長に(2011年より顧問)、学校創立90周年記念行事の実施と新校舎建設を進めました。

関東支部同窓会への女性の参加が少なく寂しく感じていました。女性が気軽に参加できる女性中心の『はちきん会』を提案、最初は場所や会費の援助もしました。同窓の女性のためにと賛同してくれる男性サポーター(ナイト)が切れ目なく現れ、定着しましたね。

高校1年生研修旅行での同窓生の協力はすごいですよね。私は東京大学の学長室や文部科学省の事務次官室まで見ても見えるよう手配をしました。今後も、研究所など地方学生には見学できない範囲を体験してもらえよう支援していきたいですね。

「伝承・宮地さんのつばやき」
40年前の会計課長時代の部下へ

《編集後記》宮地先輩の熱い思いで、今後も羽ばたき続ける土佐校であれ。インタビュー・中平公美子(59回)

一に体力・二に気力
三四が無くて・五に悪知恵

宮地さんは、土佐校二人目となる村木厚子さん(49回生)の厚生労働省事務次官内定を(6月14日報道)大変喜んでい

向陽新聞に見る土佐中高の歩み ⑦ —甲子園ベスト4の輝かしい戦績—



昭和36年
～ 39年

40回 岡林 哲夫

一・非行問題への全校での対応

昭和36年2月18日の高知新聞夕刊に『高校生刺されて重体』という記事が掲載された。内容は同日午前10時頃土佐高1年I君が校内で刺された。加害者は同年のAで当日いさかい中に短刀でI君を刺した。被害者も大型ナイフを持っていた。高知南署はAを殺人未遂の疑いで緊急逮捕したというものであった。

同年6月の向陽新聞51号(以下、号数のみは向陽新聞)では、本件に対する生徒側の対応を詳細に報じている。この事件に驚いた生徒委員会はこの事件の原因が当事者にだけあるのではなく、事件前の校内の風紀の乱れにあるものとし生徒総会を2月20日に直ちに開催・討議し、各クラスに風紀取締り委員を設け、学校生活の改善に乗り出すことなどを決

定した。

学校側では生徒の個人的指導を行っていた「生徒部」に加え「特活部」を作り、クラブ活動やホーム等のグループ活動とその統率を行うことを仕事とするものであり、風紀委員会の設立も提案した。

新聞部は「主張」で、特活部・風紀委員会の設置よりも学校が挙げてその根本原因を追及することが本当の姿だと述べている。

この時期の課題の一つは中学での道徳の時間の導入であり、特にホームルームとの関係であった。新聞部はこの時期積極的に発言し、生徒の自主性とホームルームの活発化を促すとともに学校側の指導にも提言を行った。(52号～55号)

昭和37年5月の55号では、『非行問題をさぐる』として総括し、刺傷事件と同時期中三生による集団万

引事件等は誤った英雄主義が背景にあり、盗難・喫煙などは少なくなりつつあるが、不祥事件を絶滅するよう訴えている。

生徒側、学校側の危機意識に基づく対応もあり、この頃から非行問題関連の記事は減少している。

二・「団塊の世代」の入学及び劣悪な勉学環境の改善

昭和22年生まれがベビーブーム世代(後に「団塊の世代」と呼ばれた)の第一陣であり、41回生が昭和35年に中学入学してから土佐中・高にもその影響が及んでいる。

昭和36年6月の51号では中二編入生が当初予定の各クラス一名の四名であったのに四名ずつ十六名と大幅に増加し、『一クラス七十名に』になったと書いている。また、この学年が高校生になる昭和38年は高校進学希望者が増加するので私立校も收容して欲しいとの希望が県教委よりあったと伝えている。

昭和36年12月の53号では、『来年度の中学校六十名クラス実現』との見出しで、県教委の要請を受け中二、中三の編入生を増やし、昭和37年度から中一(43回)は4クラス、

中二(42回)と中三(41回)は5クラスにすると書いてある。また、記事中に41回生からは高校6クラスになるとしている。土佐高の卒業名簿をみると41回、42回生は6クラスある。

中学のクラス名はアルファベット順なので4クラスを5クラスにするにはEの名称を使えば良いが、高校はTHOKS(土佐報恩感謝の頭文字と聞いていた)なので、6クラス目がどうなるか関心が集まったが結局Nとなった。当時の生徒の間ではNの理由は新しいからだとか担任のインシャルからだとか諸説あったが向陽新聞には関連記事は記載されていない。

昭和38年10月の59号には『運動会組分け決まる』と題し、クラス数が変則的なため組分けが心配されたが、前年と同様五色で優勝を争い、六クラスある高一はうち2クラスを一組にまとめ、4クラスしかない中一、中二は架空の組を一組作るとしている。

この時期の向陽新聞では1クラスの人数もさることながら、教室の暗さ、売店の問題を勉学環境の問題として積極的に取り上げている。

高新連最優秀紙に選ばれた
(向陽新聞56号)



の都合がついたとして、総額約60万円で未設置の21教室に2灯計42灯を設置した。生徒からは不完全との声もあつたが昭和38年6月の58号では『手さぐり教室に「三条の光」とひねって報じた。

また、56号では『激化する売店問題』として売店が生徒の便宜を図っていないとの結論を生徒委員会が提起し

昭和36年10月の52号では『蛍光灯は必要ないか』とし、生徒代表から出された全教室に蛍光灯をつけて欲しいとの要望に対し、学校側が雨の日くらいは我慢するように、配線工事が大がかりになるなどの理由で応じなかったことを報じた。翌年11月の56号では物理部が雨天の日の各教室の照度を測定し、黒板の明るさが足りないと判明したことや視力異常者の割合が県内他校、全国平均に比べ大きいことを指摘している。

生徒側からの蛍光灯設置の要望に対し昭和38年度から予算

たと報じ、同問題を掘り下げるため一般生徒の意向調査としてアンケートを実施した。それらを基に「主張」で『食堂・売店は利益本位を捨てて「厚生施設」へ脱皮せよ』と論じた。翌年2月の57号では『売店運営の改善へ』と題し、改善が実施されつつあることを報じている。昭和38年10月の59号によれば同年8月に行われ百十校ほどが参加した全国高等学校新聞連盟(高新連)の新聞コンクールで慶応高、逗子高のものととも

56号が最優秀紙に選ばれた。

三・十一年ぶり甲子園出場

昭和38年12月の60号では『県大会・四国大会 十一年振り三度目の優勝 甲子園出場は確定的』と大きく報じた。県大会の準決勝では優勝候補常連で数年勝てなかった高知高を接戦の末二対一で破り、決勝でも安芸高を降した。徳島県で開催された秋季四国大会では新居浜商、坂出商を破り決勝では、徳島海南高を降した安芸高と対戦し延長16回の末四対三で勝利した。高知商、高知高の壁が厚く甲子園への道が遠かった土佐高の両大会前の下馬評では評価は低

かったが高知高を破って以来調子を上げ、見事四国大会での優勝に輝いた。新聞部は四国大会には3名の部員を派遣した。

翌年3月の61号では『本校野球部甲子園へ』と題し、第三十六回選抜高校野球大会に四国から本校とともに安芸高、徳島海南高が選ばれたことを伝えている。なお、同号の一面ではジフテリア禍が本校を襲い、卒業式

が土電会館に変更となったことを報じている。

昭和39年7月の62号では『ベスト4に輝く』『見事なグランドマナー』と題し野球部の活躍と全力疾走のグランドマナーを大きく取り上げた。一回戦は不戦勝で、二回戦では浜松商、三回戦では平安高(捕手・衣笠祥雄)を破り、準決勝で徳島海南高(投手・尾崎将司)と対戦し〇対一で惜敗した。因みに、この年の夏の甲子園では高知高(主将・有藤通世)が全国優勝した。

62号では野球部の健闘を称



野球部の活躍記事と学校の野球至上批判
(向陽新聞62号)

え、輝かしい成果を報じるとともに、昭和39年4月8日付け高知新聞朝刊に掲載された土佐高の一生徒の投書『野球至上はイヤだ。スポーツに上下はない』を引用し、学校側の野球至上主義を「主張」で批判している。後援会のあり方や遠征費の問題等、新聞部は野球部だけを特別扱いにする学校側の姿勢は問題とし、他の部の活動にも目を向けるように主張した。

まとめ

非行問題から始まった昭和30年代後半は全校での対応や勉強環境の改善とも相俟って落ち着きを持って昭和40年代を迎えようとしていた。その間、新聞部は生徒委員会を叱咤しつつ、時には協力して学校側に勉強環境の改善を促した。

新しい情報発信手段が多数ある現在、それらを活用してかつての新聞部の機能を果たすような存在が生徒諸君から内発的に生まれることを期待したい。先輩としての立場の範囲で協力は惜しまない。

『憂郷のつばやき』(39回 浜口和也)

そもそも政治に絶対や完璧がないとすれば、「よりましな政治」を選択するしかない。もっとも「よりまし」どころではなかった民主党政治の悪夢は論外である。福沢諭吉の「この人民

日前提票や不在者投票制度もあるではないか。降雪地域はもっと大変だった筈だ。

引用すれば、国民の政治民度が未熟でありながら政治に明け、完璧や完全を求めても所詮無理なこと。民主主義国家における主権者・国民の最大の権利行使のチャンスである昨年末の衆院選でのあの低い投票率(59.32%)は、日本人の政治民度が未熟であることの証左でもある。選挙のできない人々が世界中に未だ沢山存在する中で選挙権はあっても投票しない日本人は、平和ボケであることを如実に物語っている。そんな低レベルの政治民度の中で、高知県の投票率(53.89%)は全国最低、「何をかいわん哉」であり郷里の政治民度の劣悪さには思わず目を背けたくなる。白票も立派な意思表示であるし、期

最貧県への転落は、清貧に徹すればよいのであるから、貧乏は恥ずべきことではないとしても、行政情報公開制度全国最下位(平成22年県平均)、瓦礫広域処理非協力の薄情とエゴ、短い健康寿命、全国最悪の投票率、教職員の直前早期退職、警察官の懲戒処分者割合・全国ワースト4、等々、郷土の不名誉をこれ程までに曇り掛けられては、観光特使もたまったものではない。不名誉の内容も理念や知性の希薄を窺わせる情けないものばかりである。県民所得は最貧、気概も品性も貧困となれば、「清貧に徹する」どころか、「貧すれば鈍する」、「衣食足りて礼節知らず」の最悪の事態である。自由民権運動然り、幕末・維新以降の日本政治を少なからずリードしてきた高知県の自負はどこへ消え去ったのであろうか。泉下の先人達からも

憂郷のつばやきが聞こえる。ソメイヨシノの開花一番乗りや、四万十川や仁淀ブルーなど、高知の自然は今でも美しく逞しい。しかし、そこに住む県民の気骨の腐敗と理性や品格の欠落を見るに、高知の「自然と県民性の落差」は目を覆うばかりである。高知の自然が一流であるだけに、県民もそうあってほしいものだ。「この人民にして、この政治あるなり」、「この県民にして、この県あるなり」であるから。

もっと高い次元において、重厚で深みの有る存在感を示して欲しいものである。清貧を貫き、反骨の精神漲る県民気質の復活をリードする土佐高、県勢の再生に主導的役割を發揮する在郷土佐高OBを期待してやまない。また母校のセンバツ出場の快挙は全力疾走の精神と文武両道の校風も評価されたのであろうが、それにふさわしい試合内容であったか。

今の高知県は不肖の郷里だが、掛け替えないふるさとでもある。今は覚醒と蘇生を待つしかない。そこで我々脱藩者にも今直ぐ出来ることがある。それは「ふるさと納税」。住民税の割程度までを高知の自治体に寄付し、その後確定申告をすれば、寄付した額から自己負担2千円を差し引いた額が、現在の住所地に納めている住民税等から控除される。自分の税金の一部を高知へシフトするのである。

一人ひとりの「ふるさと納税」は小額であっても、「貧者の一灯も積もれば山となる」のである。高知再生の一助として、また我々をばぐんでくれた郷里への恩返しとして、何と云って

何と云っても極めつけはわが母校への落胆である。土佐高OB達は、高知県のあるべき姿について、言論や行動を通して、オビニオン・リーダーとしての主導的役割を、これまで果たしてきたのであろうか。東北への瓦礫処理の協力を促す「明日は我が身」「情けは人のためならず」「瓦礫処理にいち早く手を挙げよ」の苦言の時も痛感したのではあるが、支援・共助への冷たい姿勢に失望と憤りを禁じ得ないのであった。かつての県内最高学府としての自覚と矜持が今でもあるなら、それらしく、土佐高ならびに土佐高OBには

も高知の将来世代のために、全国の脱藩者が「ふるさと納税」で高知を応援して、『高知脱藩者の郷土愛は日本一』を示すのではないか。

土佐高も母校の寄付金集めだけではなく、県外在住卒業生に對する「ふるさと納税」働きかけの先頭に立つてはどうか。

ガーナよさこい支援会

第十回日本研修旅行に参加のガーナ高校生20人は8月16日に来日、麻布学園など都内高校生や東京遠征の土佐中・高生らと交流、8月25日(日)午後には「原宿スーパーよさこい祭」で演舞予定です。

一行は27日に来高、一週間滞在して土佐校訪問やホームステイを体験します。先輩の活躍ぶりをご参観ください。

(日程詳細は「ガーナよさこい支援会」ホームページに掲載予定)

追悼 吉澤信一氏

吉澤信一君を偲んで

さきの大戦末期から、戦争直後の期間の関東支部の活動を知る仲間がまた一人減ってしまった。

理系のエリートながら、吉澤信一君は、支部活動の中核であった近藤久寿治先輩（6回・故人）夫妻の結婚の仲人をつとめたのが、同君のご両親であった関係もあってか、文系主流の人脈の中に融け込み、北岡龍海先輩を援けて、ゴルフを含む筆山会活動の基礎固めに尽力、後に筆山会会長として貢献された。

同じ十六回生というだけでなく、お互いに東京の同じ区で、同じ私鉄沿線の住人であって旧交を暖め合う機会も少なくなかった。

今年新年早々、筆者は呼吸困難で緊急入院する騒ぎを演じたが、今にして思えば、「次は一緒に行く」とのお誘いであったのか？ そうだったとすれば「ツキアイが悪くてゴメンナサイ」と平謝りに謝る次第です。

(16回 曾和純一)

このたび、ご夫君信一様にはかねてからご療養のところ一月にご他界になり、すでに土佐の墓所の埋葬もすまされたことを織田祐輔様から承り、私も土佐校出身のメンバーもただただ愛惜の気持ちを抑えることができません。

吉澤先輩には、私ども同窓生の中心的な集まり

である筆山会の会長として同窓生のためにたいへんご尽力いただきました。また筆山会では年に二回ゴルフ会を催しておりますが、先輩にはいつもお元気に皆の者をご激励いただき、おかげで皆がほんとうにたのしいゴルフをさせていただいたことも貴重な思い出です。

ここに吉澤先輩のありし日の温容をしのび、一同の尊敬と感謝の気持ちをこめて、心からお悔やみもうしあげます。つきましては、私どものなかでもっともご面識をいただいております西内世話役に、代表して私どもの感謝の気持ちをお伝えし、吉澤先輩のご冥福をお祈りさせていただきたく存じます。

平成二五年二月二六日

筆山会会長 森健

吉澤信一様 御輿様

お悔やみ申し上げます

| | | |
|-----|-------|------------|
| 13回 | 溝間 泰輔 | 不明 |
| 16回 | 吉澤 信一 | H 25・1・4 |
| 22回 | 一柳 健 | H 24・9・27 |
| 27回 | 秋田 清夫 | H 25・4・7 |
| 29回 | 伊藤 博之 | H 24・10・29 |
| 31回 | 島崎 睦美 | H 25・5・14 |
| 32回 | 大野 晋 | H 24・12 |
| 34回 | 永野 浩 | H 25・2・17 |
| 40回 | 小島 三郎 | H 24・11・24 |
| 41回 | 中屋 隆彦 | H 25・2・2 |
| 61回 | 森本 雅子 | H 24・11・16 |

小島三郎さんへの詫び状

40回生の小島三郎さんが亡くなられ、師走に八王子で執り行われたお通夜に出かけた。祭壇から微笑みかける遺影に、私は手を合わせて「すみませんでした」とつぶやく他なかった。同窓会のごことで散々迷惑をかけたことへのお詫びであった。

小島さんは関東支部の初代名簿作成委員長である。名簿づくりは努力のいる作業だ。持ち前の義侠心と面倒見の良さでこの辛い任務を引き受けてくれた。二十年以上も昔のことになる。

当時はパソコンなど普及しておらず、宛名シールなどみな手書きの時代だった。名簿管理と事務処理アツプに不可欠の小島さんの英断で、支部初のコンピュータが導入された。同時にその道に明るい精鋭たちが集められて「名簿チーム」が発足した。今日と同窓会の発展は氏の人脈と最新鋭の技術に支えられてきたのである。

当時の小島さんは、自ら立ち上げた「日本テクナート」の基盤固めと更なる飛躍のための大事な時で、会社に泊まり込むことも多く、まさに寝食を忘れての日々であったと聞く。技術開発者としてまた経営者として激

務の氏にとって、同窓会の世話には迷惑そのものであったろう。が、休日の度に集まる名簿チームのために会社の一室を提供し、夜ともなれば慰労にと新宿や渋谷の盛り場へ案内してくれた。

俳優の館ひろしを彷彿させる長身と優しい細い目をさらに細めて歌うカラオケは味があり、プロなみであった。

その後、小島さんには「名簿」に続いて「筆山会」の事務局までもお願いすることになった。ご家族との貴重な団らんの時間までも奪ってしまっていたのではないかと今更ながら申し訳なく思う。

「おまえさんのおかげでえらい目におうたわい」

五、六年前だったかそんな愚痴も聞かされた。それが小島さんに会った最後となり、既にその頃病と闘われていたのかと思うとひたすら氏とご遺族にお詫びする他はない。まだまだやり残したことが沢山あったろうに。小島さん、本当にすみませんでした。安らかに眠りください。お世話になったご恩は忘れませぬ。

(41回 岩村康生)

筆者注 諸先輩を差しおき書かせて頂きましたのは、小島さんを同窓会業務に引きずり込んだ当時の張本人としての懺悔のつもりです。ご容赦下さい。

筆山会 新年会

2013年1月12日
幸徳正夫 (37回)

筆山会の新年会が新春1月12日、昨年同様、明治神宮周辺の代々木倶楽部で正午より開かれた。会は西内幹事(30回)の司会のもと森健会長(23回)

の「今年こそは遅く生き抜く再建の年としたい。土佐中高の同窓生としての連帯を取り合い、筆山会もその一助となる活動をしたい。そして皆様にとって輝く年になることを祈念します。」と凛とした佇まいの格式高い年頭の挨拶で幕を開けた。続いて21回の宮地大先輩が「僕は名簿で崖っぷちとなりましたが、参加者諸氏の健闘と併せて土佐高の発展を祈って、乾杯！」と米国の財政の崖をモチーフに闊達な乾杯の挨拶で、新年会は一気に盛り上がった。筆山会の新年会参加者は、今が旬!の方々である。先輩だからと偉ぶらず後輩だからと卑屈ならず「『寒いね』と話しかければ『寒いね』と答える人のいるあたたかさ」(俵万智)の一首が瞬時に浮かぶ居心地のいい同窓生の集いである。会場での様子をレポートして欲しいと西内幹事に依頼されたが「はい！」と答える以外の返事の選択肢のない依頼の仕方は



ある意味で学ぶところ大である。今回は多士済々の方々が話されたが、紙面の都合もあり、記憶をたどって会場の様子の一部をレポートしたい。関東支部の森郁夫支部長(41回)は組織人としては頂上を極めた経済界の重鎮であるが、出席者名簿を見て「こんな後ろに名前が載っている名簿を初めて見た」と一言。これには一同大笑矣。同窓会名簿であれば止む無しである。関東支部に限れば名幹事長の市川氏(53回)、名事務局長の二宮氏(49回)も参加者名簿では最下位争いの若さである。それがまたいいのである。新年会はこちらこちらに小グループが自然発生し、それが隣のグループと合併、時計の針の進み方がいつもより早く感じたのは小生だけではないはずである。佐々木さん(33回)のハチキン会、中島氏(38回)のハイクの会の活動報告の頃には、聞くもよし聞かざるもよしされど仲良しの雰囲気であった。しかし、市川氏が野球の話ばかりでは他の部活の生徒に申し訳ないが、と断りを入れつつ、第85回選抜高校野球大会で我が土佐高が21世紀杯の4校の候補に残っているとの報告には、一同拍手喝采。にわか高校野球評論家続出である。「文武両道の土佐高を高野連は出したいがよ！」の自然発生的な意見には全員異議なしと大いに盛り上がった瞬間であった。

(1月25日午後3時過ぎに選抜決定の一報が母校に届いた。20年ぶり7回目の出場となる。)新年会中締め間際に前田氏(37回)が、囲碁クラブを同窓会縦断的な規模で立ち上げたい旨の提案があった。着眼大局、着手小局の格言を思い起す。大局観をもって終盤に臨むには、序盤の布石が大事。囲碁の世界のみの格言に非ずと痛感する。名残惜しくも終宴の時間となり、来年の再会を約して三々五々会場を後にした。筆山会はいよいよ土佐高同窓会はいよいよつくづく思う。それは同窓生各位が「エラクナツチャイケナイミットモナイ」(やなせたかし)の共通認識があるからであろう。

「1月25日午後3時過ぎに選抜決定の一報が母校に届いた。20年ぶり7回目の出場となる。)新年会中締め間際に前田氏(37回)が、囲碁クラブを同窓会縦断的な規模で立ち上げたい旨の提案があった。着眼大局、着手小局の格言を思い起す。大局観をもって終盤に臨むには、序盤の布石が大事。囲碁の世界のみの格言に非ずと痛感する。名残惜しくも終宴の時間となり、来年の再会を約して三々五々会場を後にした。筆山会はいよいよ土佐高同窓会はいよいよつくづく思う。それは同窓生各位が「エラクナツチャイケナイミットモナイ」(やなせたかし)の共通認識があるからであろう。

編集後記

祭壇の遺影に笑顔はない。刃を構えた鋭い眼光。敢然病に立ち向かった不屈の闘志。お孫さんと並んだ写真から切り取ったその遺影からは、瞳の奥の穏やかな笑みも見て取れる。苦難に立ち向かう凛とした姿を遺言とし、

「剣士 秋田清夫」逝く。

村木厚子さん(49回)が厚労省の次期事務次官に内定、との情報が流れました。この号が出る頃にはもう次官でしょうか、おめでとござります。(N)

おきやく
TOSA DINING
一般財団法人
高知県産外商公社

プロデューサー
濱田知佐(56回生)

アルバイト
西村希生(83回生)
和泉侑吾(87回生)
黍原健(87回生)
川崎卓朗(88回生)

まるごと高知

www.marugotokochi.com/
Tel 03-3538-4351 (サンゴ・血鉢・ヨサコイ)
〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-13

他日、八千峰十四座全山登頂者、植村直己冒険賞受賞の竹内洋岳さんがNHK出版新書より「登山の哲学」を上梓された。岳父野波博泰さん(26回)もにつきり。(T)

大橋一章(36回生)

●『仏教』文明の受容と君主権の構築

<2012.5 ¥9,975 勉誠出版>

●『てら ゆきめぐれ』大橋一章博士古稀記念美術史論集

<2013.5 ¥31,500 中央公論美術出版>

早稲田大学で永らく古美術の教鞭をとられてきた大橋一章博士が古稀を迎えられるにあたり、その学恩を受けた37名の研究者によってまとめられた献呈論文集

(中央公論美術出版HPより転載)

西村繁男(40回生)

●『びんぼうがみじや』

<2012.12 ¥1,155 教育画廊>

ぼくんちはおだんごやさん。「びんぼうがみ」っていうおじいさんがやってきました、お客さんおどろかし、おうちも傾ちゃった！おかあさんはおこって「きれいよしなさい！」と汚れたおじいさんをお風呂に放り込んだら…

(教育画廊HPより転載)

●『むらの英雄』

<2013.4 ¥1,470 瑞雲舎>

むかし、アディ・ニハスという村の12人の男たちが、粉をひいてもらうために、マイ・エデガという町へ行った。帰り道、一人が仲間を数えたが、自分を数えるのを忘れたので、11しかもなかった。「たいへんだ！誰かいないぞ！」

(瑞雲舎HPより転載)

黒鉄ヒロシ(41回生)

●『伊勢物語』

<2013.3 ¥1,680 小学館>

在原業平の伝記ともいわれる平

安の雅の世界を、平成の“色好み”を知る絵師・黒鉄ヒロシが業平に同化、「芥川」「東下り」「筒井筒」など馴染みの深い段も含めて、全段、流麗、風雅、爆笑、感動、入魂の初漫画化！！(小学館HPより転載)

●『GOLFという病に効く薬はない』<2013.3 ¥1,575 幻冬舎> 驚愕のゴルフ史を漫画で綴る、GOLF好きの必読書！ゴルフという病を克服する処方箋が、この一冊の中に隠されている！(幻冬舎HPより転載)

西田博(47回生)

●『新しい刑務所のかたち 一未来を切り拓くPFI刑務所の挑戦』

<2012.6 ¥1,890 小学館集英社プロダクション>

民間のノウハウを取り入れた官民協働の刑務所として知られている「PFI刑務所」。現在、全国に四つの社会復帰促進センター(PFI刑務所の呼称)があります。このPFI刑務所を一から築き上げた現役の法務省大臣官房審議官である著者が「日本の刑務所の未来像」をはじめ語ったのが本書です。PFI刑務所とは何なのか、公権力が行使される刑務所をなぜ官民協働にしようと考えたのか、どのようなメリットはあるのか、地域住民の受け入れ態勢はどうだったかなど、の疑問にすべて答えています。

宮岡等(49回生)

●『脳とこころのプライマリケア 3 こころと身体の相互作用』<2013.3 ¥35,700 シナジー>

●『口・あご・顔の痛みと違和感

の対処法』

<2013.3 ¥4,200 ヒョーロ・パブリッシャーズ>

身体の検査所見で原因をみつけることのできないケースや症状を十分に説明できないケース、さまざまな処置を行っても改善しない等の難治症例について、歯科 医師として知っておきたい知識、心身医学・精神医学的な面からの対処法をわかりやすく解説 (ヒョーロパブリッシャーズHPより転載)

坂東真砂子(51回生)

●『隠された刻(とき)』

<2013.2 ¥1,890 新潮社>

南島の洞窟に、歴史の闇が眠っていた——壮大なスケールで描く叙事詩ミステリー！(新潮社HPより転載)

●『ブギウギ 敗戦前』

<2013.1 ¥660 角川書店>

●『ブギウギ 敗戦後』

<2013.1 ¥660 角川書店>

森岡正博(52回生)

●『決定版 感じない男』

<2013.4 ¥756 筑摩書房>

実はオトコは「不感症」なのではないか。この観点から、ロリコン、制服、ミニスカなど禁断のテーマに挑む。自らの体験を深く掘り下げた、衝撃作 (筑摩書房HPより転載)

英保未来(54回生)

●『ペンネーム 大森望』

<2013.4 ¥2,100 早川書房>

第二次大戦中のイギリスでの現地調査に派遣されたオックスフォード大の史学生三人は、未来こぶじ帰還できるのか。好評の『ブ

ラックアウト』続篇

(早川書房HPより転載)

●『てのひらの宇宙 星雲賞短編F傑作選』

<2013.3 ¥1,050 東京創元社>

川村昌嗣(54回生)

●『医師がすすめる腹凹(はらぺこ)ウォーキングダイエット』

<2013.2 ¥1,155 幻冬舎ルネッサンス>

●『Dr.川村の腹凹(はらぺこ)ウォーキング・ダイエット』

<2012.10 ¥1,050 日本文芸社>

基本お腹を凹ませて歩くだけ！我慢や努力は必要なし！習慣化できるからリバンドもゼロ！——50代目前に、内科医の著者自身も体重-10kg・腹囲-17cmに成功した話題のダイエット法。(日本文芸社HPより転載)

●『お遊園地』巻くたダイエツト』

<2013.4 ¥1,050 宝島社>

森岡浩(55回生)

●『あなたの知らない 関東地方の名字の秘密』

<2013.3 ¥840 洋泉社>

廣瀬裕子(60回生)

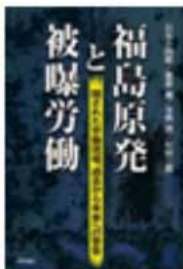
●『ペンネーム 高遠裕子』

●『新装版 楽して幸福を手に入れる 80対20の法則 生活実践編』<2013.5 ¥1,680 阪急コミュニケーションズ> むだな努力をせずに人生で成功する法。22の言語に翻訳されたベストセラーの第2弾。(阪急コミュニケーションズHPより転載)

●『チャーチル 不屈のリーダーシップ』

<2013.4 ¥1,890 日経BP社>

私の一冊



村田三郎(41回生)共著
福島原発と被爆労働
一隠された労働現場、
過去から未来への警告

原発は事故を起こしたから危険なのではない。本書は、原発とは、それが正常に稼働すること自体が、死の灰を撒き散らす「悪魔の火」であることを明らかにする。そこで働く二次、三次の下請け労働者の多くが病に倒れ、しばしば死に至る。それを承知で建設、再稼働を推進するグループは、もはや傷害、殺人の確信犯と断ぜざるを得ず、これを世界に売り歩く姿からは、死の商人の匂いが漂ってくる。

<2013.1 ¥2,415 明石書店>

評：41回生 鶴和 千秋(関東支部顧問)

田島征三(34回生)
花じんま



日本昔話「花咲か爺さん」を土佐弁で書いた絵本です。福音館書店のホームページで田島さんによる朗読が聴ける特典付き。ぜひ、迫力があって味わい深い土佐弁の語りをお聞きください。

http://www.fukuinkan.co.jp/detail_page/978-4-8340-2796-9.html

<2013.3 ¥1,365 福音館書店>

評：67回生 遠藤麻枝(出版レーダー担当)